

# ロシアにおける 2007 - 08 選挙サイクル

2007/11/16 日本記者クラブ講演  
上智大学外国語学部ロシア語学科 上野俊彦  
<http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html>  
uenot@mc.newweb.ne.jp

## 1. はじめにー「民主化」後退論によせてー

### 1.1. 「民主主義」概念の多様性

#### 1.1.1. ロシア政治の定番的入門書<sup>1</sup>におけるギッテルマンの議論

- ①ダイヤモンド (Larry Diamond)、リンツ (Juan Linz)、リップセット (Seymour Martin Lipset) の共著<sup>2</sup>における定義
- ②ダールの『ポリアーキー』における定義
- ③ハンチントン (Samuel Huntington) の定義<sup>3</sup>
- ④アンダーソン (Lisa Anderson) の定義<sup>4</sup>

#### 1.1.2. ロシア政治学者フィッシュの議論<sup>5</sup>

- ①選挙を重視するシュムペーター主義者は、1991年にはロシアは民主化し、その後も定期的に選挙がなされているので、1990年代の間に民主主義は後退したのではなく、前進したと評価する。
- ②選挙だけでなく、市民の政治への実質的な参加や、主要な政策の決定が選挙された公職者によってなされることなどの条件を定めたダールの支持者は、ロシアはポスト・ソ連体制を開始した途端にポリアーキーから滑り落ちたと評価するかもしれない。
- ③ダールの定義を形式的だと評価する研究者の中には、さらに多くの条件、特に経済的公正 (分配の平等) という条件を加える学派や、「法の支配」や「市民社会」の存在を条件として加える学派がある。これらの定義を支持する人々は、ロシアの政治はそもそも民主主義として性格づけられるものではなく、せいぜいのところ部分的な民主主義としてみるべきで、それも年を経るごとに悪化していると評価する。

#### 1.1.3. 「民主主義」に暗黙のモデルを想定することをやめる

個々の社会は異なる歴史と文化を持ち、また多様であり、異なる社会のあいだには

<sup>1</sup> White, Stephen, Pravda, Alex and Gitelman, Zvi (eds.), *Development in Russian Politics* 5, Palgrave, 2001, pp. 289-290.

<sup>2</sup> Diamond, Larry, Linz, Juan, and Lipset, Seymour Martin (eds.), *Politics in Developing Countries: comparing experiences with democracy*. Lynne Rienner, 1988.

<sup>3</sup> Huntington Samuel, *The Third Wave: democratization in the late twentieth century*. University of Oklahoma Press, 1991.

<sup>4</sup> Anderson, Lisa (ed.), *Transitions to Democracy*. Columbia University Press, 1999.

<sup>5</sup> Fish, M. Steven, "Conclusion: Democracy and Russian Politics," in Barany, Zoltan and Moser, Robert G. (eds.), *Russian Politics: Challenges of Democratization*, Cambridge, Cambridge University Press, 2001, pp. 215-251.

ある点が似ていて、ある点は似ていないという相互の相対的距離があるだけで、単一の到達点を持つ単純な発展段階を進むわけではないと考えるのである。この社会のこの制度（あるいは「国民の意識」でも、何らかの「仕組み」や「様式」などでもよい）は、以前はこうだったが現在はこうなっているからこの社会はこのように変化した、と考えるのである。一つの「民主主義」モデルを設定して、ある地域と別の地域をそれで測るような議論は、決して生産的なものとはならない

## 1.2. 現代ロシア政治についてのステレオタイプ

### 1.2.1. ステレオタイプ 1

エリツィン政権は民主的であった、あるいはプーチン政権ほど非民主的ではなかった。

しかし

- ・エリツィン政権下では、プーチン政権に比べて地方（連邦構成主体）の権限が強く、地方分権化が進んでいたという印象があるが、実際には、それぞれの地方において首長の専横がはなはだしかった。
- ・エリツィン政権下における地方分権化は地方政治の腐敗や混乱をもたらしただけ。だから、プーチン政権下における、地方首長の公選制の廃止など中央集権制を強化し、連邦制を弱化する改革に対して、国民のあいだでそれほど強い反発が起きなかった。

### 1.2.2. ステレオタイプ 2

プーチン政権下ではマスコミに対する統制が強化されている。

しかし

- ・報道の内容の厳密な分析を前提とした議論は少ない
- ・プーチン政権の時期に飛躍的に発展したインターネットなどの影響が考慮されていない。国境を越えたメディアである衛星放送や、とりわけインターネットの存在は、一国規模におけるマスコミ統制の効果を相当程度減殺する<sup>6</sup>。

## 1.3. 固定観念やステレオタイプに惑わされずに

「民主化の後退」とか「権威主義化」といった一面的な評価でロシア政治を理解した気になるのではなく、ロシア政治の客観的な事実を、すなわちその仕組みや実態が、かつてはどうであり、現在はどうなっているのかを、丹念に見ていくことが大切。

<sup>6</sup> この点で、ストローブ=タルボットたちの以下のような指摘は的を射たものである。「今日のロシアを旧ソ連になぞらえるなら、見当違いもはなはだしい。今のロシアでは情報が欲しければ、非常に広範囲の情報源にアクセスできる（実際、外国語が読めれば、三極の諸国と同じ情報源が利用可能である）」（ロデリック=ライン、ストローブ=タルボット、渡辺幸治（長縄忠訳）『プーチンのロシア』日本経済新聞出版社、2006年、84ページ）。

## 2. ロシア下院<sup>7</sup>の選挙制度の概要

### 2.1. 根拠法「ロシア連邦・連邦議会国家会議議員選挙法」<sup>8</sup> (以下「下院選挙法」と略す)

#### 2.1.1. 制定

2005 年 4 月 22 日国家会議採択

2005 年 5 月 11 日連邦会議承認

2005 年 5 月 18 日大統領署名

#### 2.1.2. 発効

第 6 条を除き 2006 年 12 月 7 日発効。第 6 条は公表後ただちに発効。

#### 2.1.3. 修正・補足

同法は 5 回にわたり一部修正・補足がなされている<sup>9</sup>

### 2.2. 拘束名簿式全国一区比例代表制

#### 2.2.1. 拘束名簿式

- ・「拘束名簿式」(closed list) とは、選挙人が政党の提出した候補者名簿に定められている候補者の順位をそのまま認めて投票し、投票後、名簿の順位を変更できない方式を言う。選挙人は、あらかじめ政党が提出した候補者名簿を参照し、投票に際しては、政党名を選んで投票する。
- ・ただし、ロシア下院の場合、名簿の上位者が何らかの理由により議員を辞退した場合、当該政党指導部が同一地域グループ内の候補者の繰り上げ当選者を決めることができ、その決定は必ずしもあらかじめ定められた順番によらなくてもよい [第 89 条第 1 項]。
- ・なお、上位当選者が辞退してから 14 日以内に当該政党が繰り上げ当選者の決定権を行使しなかった場合には、中央選挙委員会が、下位順位者から順番に繰り上げ当選者を決定する [第 89 条第 2 項]。

#### 2.2.2. 全国一区

選挙区の区割りのない「全国 1 区」であるが、連邦候補者名簿は、図 1 に示すよう

<sup>7</sup> 「ロシア下院」の正確な直訳は、「ロシア連邦・連邦議会国家会議」である。なお、「国家会議」は、日本外務省訳では「国家院」となっている。この「国家会議」の部分のロシア語は、Государственная Дума [ガスダールストヴェンナヤ・ドゥーマ / State Duma] であり、帝政期の国会 (正確には下院) の名称と同じである。現在のロシア連邦の国家機関の名称や、国旗国章などのシンボルの多くは、エリツィン政権期に、帝政期のものを復活して制定されたものである。

<sup>8</sup> *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 21, 23 мая 2005г., Ст. 1919 (№ 51-ФЗ). [『ロシア連邦法令集』2005 年 5 月 23 日付第 21 号法令集掲載通番号 1919 号 (連邦法通番号第 51 号)]

<sup>9</sup> 修正・補足についての法律の大統領署名日および連邦法通番号は、2006 年 7 月 12 日付 No. 106-ФЗ, No. 107-7ФЗ, 7 月 25 日付 No. 128-ФЗ, 2007 年 4 月 26 日付 No. 64-ФЗ, 7 月 21 日付 No. 188-ФЗ である。

図1 「統一ロシア」党連邦候補者名簿の先頭部分

<p>ロシア連邦中央選挙委員会によって 原本と相違ないことが証明されている 連邦名簿 2007年10月8日 (決定第38号/285-5) 原本の真正の写し</p> <p style="text-align: center;"><b>全ロシア政党「統一ロシア」の推薦する ロシア連邦・連邦議会国家会議議員 連邦候補者名簿</b></p> <p style="text-align: center;"><b>全連邦部分</b></p> <p>1. プーチン、ヴラジーミル・ヴラジーミロヴィチ。誕生日-1952年10月7日。出生地-レニングラート市<sup>10</sup>。現住所-モスクワ市。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-ロシア連邦大統領。</p> <p style="text-align: center;"><b>地域別候補者グループ</b></p> <p style="text-align: center;"><b>地域グループ No. 1 (アディゲア共和国 (アディゲア))</b></p> <p>1. トハクシノフ、アスランチェリー・キトヴィチ。誕生日-1947年7月12日。出生地-クラスノダール辺区<sup>11</sup>アディゲア自治管区<sup>12</sup>クラスノグヴァルジア地区ウリャブ村。現住所-アディゲア共和国マイコブ市。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-アディゲア共和国大統領。全ロシア政党「統一ロシア」党员。</p> <p>2. ハジェビエコフ、ルスラン・ギソヴィチ。誕生日-1948年3月23日。出生地-クラスノダール辺区テウチェシュ地区ボネジュカイ村。現住所-アディゲア共和国マイコブ市。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-アディゲア共和国国家評議会「ハセ」<sup>13</sup>議長、大統領。全ロシア政党「統一ロシア」党员。党アディゲア支部地域政治評議会書記。</p> <p>3. デムチュク、ニコラーイ・ヴァシーリエヴィチ。誕生日-1949年1月10日。出生地-クラスノダール辺区スタロミンスカヤ地区ミール村。現住所-アディゲア共和国タフタムカイ村。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-ロシア連邦・連邦議会国家会議議員。国家会議連邦問題地域政策委員。全ロシア政党「統一ロシア」党员。</p> <p>4. ポレヴォイ、ヴァレーリー・ヴァレーリエヴィチ。誕生日-1981年8月6日。出生地-クラスノダール辺区ラビンスク市。現住所-モスクワ市。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-ロシア連邦大統領付属アディゲア共和国常駐代表第一代理。</p> <p style="text-align: center;"><b>地域グループ No. 2 (アルタイ共和国)</b></p> <p>1. ベルドニコフ、アレクサーンドル・ヴァシーリエヴィチ。誕生日-1953年4月8日。出生地-アルタイ共和国ゴルノ・アルタイスク市。現住所-アルタイ辺区<sup>14</sup>バルナウル市。教育-高等専門教育。主たる労務地または勤務地、地位、職種-アディゲア共和国大統領。全ロシア政党「統一ロシア」党员。</p> <p style="text-align: center;">. . . . . 以下続く . . . . .</p>
--

<sup>10</sup> 現、サンクト・ペテルブルク市。

<sup>11</sup> 連邦構成主体名の「辺区」は、一般には「地方」と訳されているが、ロシア法の専門家のあいだでは「辺区」と訳される場合が多い。なお、連邦構成主体とは、ロシア連邦を構成する行政単位のこと言う。

<sup>12</sup> アディゲア共和国は、ソ連時代は、クラスノダール辺区に從属する自治管区であった。

<sup>13</sup> 「ハセ」は、アディゲア共和国の最高立法機関である国家評議会のアディゲイ語による名称。

<sup>14</sup> アルタイ辺区は、アルタイ共和国と隣接しているが別の連邦構成主体である。

に、「全連邦部分」と「候補者地域グループ」部分に分かれており、「候補者地域グループ」部分は、基本的には連邦構成主体ごとに「地域グループ」に分かれている [第 36 条第 9 項および第 20 項]。候補者は、「全連邦部分」についても、「地域グループ」についても、あらかじめ順位が付されている [第 36 条第 18 項]。

### 2.2.3. 比例代表制

得票率 7%以上の政党が、全国の得票数に応じて議席を配分される [第 82 条第 7 項]。

## 2.3. 連邦候補者名簿

### 2.3.1. 連邦候補者名簿への候補者の記載と登録

- ・非党員の連邦候補者名簿への記載は、全候補者の 50%までとする [第 36 条第 6 項]
- ・前回の選挙で議席を獲得できなかった政党は、中央選挙委員会への連邦候補者名簿の登録に際し、20 万人以上の選挙人の氏名、生年、住所、身分証明書<sup>15</sup>の記号・番号を付した署名簿を提出するか、または別途定められる供託金を納入しなければならない [第 39 条第 1 項、第 2 項]。供託金は当該政党に 4%以上の得票があった場合、返還される [第 66 条第 9 項]。
- ・候補者は、表 1 に示すような、資産報告を提出しなければならない [第 38 条第 4 項]。

### 2.3.2. 連邦候補者名簿の形式

- ・連邦候補者名簿の全部または全連邦部分を除く部分は地域別候補者グループに分かれていなければならない [第 36 条第 9 号]。
- ・連邦候補者名簿の全連邦部分は 3 名を超えてはならない [第 36 条第 20 項]。
- ・連邦候補者名簿の候補者総数は 600 名を超えてはならない [第 36 条第 22 項]。
- ・連邦候補者名簿の例は図 1 のとおり (実際の 2007 年 12 月下院選の「統一ロシア」党の先頭部分)。

## 2.4. 選挙運動

### 2.4.1. 選挙運動に対する規制

「下院選挙法」による選挙運動の規制は少ない。

<sup>15</sup> ここでいう「身分証明書」のロシア語は паспорт [パスポート / passport] であり、外見上も確かにパスポートによく似ている。しかしロシア国民はこのパスポートでは外国に旅行することができず、外国旅行のためには、別途、外国旅行用パスポートを取得しなければならない。そこで、この身分証明書にあたる国内用パスポートを「国内旅券」、外国旅行用パスポートを「外国旅券」と訳すことがある。しかし、この「国内旅券」という訳語は誤解を招きやすい。なぜならば、この国内用パスポートは、文字通り「身分証明書」として、公的機関でのさまざまな手続きに必要であり、旅行時のみならず日常的に携帯する必要があるからである。ちなみに、選挙のときに投票所で投票用紙の交付を受け取る際に、ロシア国民は、パスポートの提示を義務付けられている [下院選挙法第 75 条第 6 項]。

2.4.2. 選挙運動を禁じられている個人および団体

公職者、公務員、軍部隊、軍の施設および組織、慈善団体、宗教団体、選挙委員会、外国人・外国の組織、マスコミ等は、選挙運動を禁じられている [第 55 条第 7 項]。

表 1 資産報告書の内容 [「下院選挙法」付表 2]

氏名	身分証明書の記号・番号	所得	資産								
			不動産					車両	銀行預金	株式	その他の有価証券
			土地	家屋	区分所有住居	別荘	車庫				
所得の出所と金額	所在地、面積	所在地、面積	所在地、面積	所在地、面積	所在地、面積	面積	資産の種類、所在地、面積	車種、メーカー、モデル、製造年	銀行の名称と所在地、口座番号、残高	所有率	企業の名称と所在地、種類と発券者、金額

2.5. 選挙の不成立

2.5.1. 投票率が 20%未満 [「ロシア連邦国民の選挙権および国民投票参加権の基本的保障についての連邦法」第 70 条第 2 項(a)]。

2.5.2. いずれの政党も得票率<sup>16</sup>が 7%未満 [第 82 条第 4 項の 2]。

2.5.3. すべての政党の得票総数が投票参加者数の 60%またはそれ以下の場合 [第 82 条第 4 項の 3]。

2.6. 選挙の無効

2.6.1. 投票の実施あるいは投票結果の確定に際して犯された違反のために、選挙人の意志表示の結果を正しく確定できない場合 [第 82 条第 5 項の 1]。

2.6.2. 投票結果が無効となった投票区の選挙人数が選挙人総数の 25%以上の場合 [第 82 条第 5 項の 2]。

2.6.3. 裁判所の判決による場合 [第 82 条第 5 項の 3]。

<sup>16</sup> 各政党の得票率は、計算式 [各政党に賛成投票した選挙人数÷投票参加者数=得票率] により求められる。

## 2.7. 政党別議席配分の方法

2.7.1. 得票率 7%以上の政党が 2 つ以上あり、かつそれらの政党に投じられた投票数の合計が投票参加者数の 60%を超えた場合、得票率 7%以上の政党に議席が与えられる [第 82 条第 7 項] (表 2、なお得票数は架空の数字である)。

表 2 7%阻止条項による各党の議席獲得の有無 (得票数は架空の数字)

	得票数	得票率(%)	議席獲得
ロシア農業党	1,530,098	3.01	×
「市民勢力」	847,159	1.67	×
ロシア民主党	717,092	1.41	×
ロシア連邦共産党	4,611,526	9.07	○
「右派勢力同盟」	1,138,157	2.24	×
社会公正党	826,918	1.63	×
ロシア自由民主党	3,762,761	7.40	○
「公正ロシア」	3,654,393	7.19	○
「ロシアの愛国者」	885,242	1.74	×
「統一ロシア」	31,982,506	62.89	○
「ヤーブラコ」	901,253	1.77	×
合計	50,857,105	100	

ロシア連邦共産党、ロシア自由民主党、「公正ロシア」、「統一ロシア」の得票率合計  
 $=9.07+7.40+7.19+62.89=86.55$

なお、政党の順番は、2007 年 10 月 31 日に中央選挙委員会で実施されたくじ引きによる投票用紙記載順である (<http://www.kommersant.ru/doc.aspx?DocsID=821069> [2007/11/13])。

2.7.2. 得票率 7%以上の政党に投じられた投票数の合計が投票参加者数の 60%またはそれ以下の場合、議席を獲得した政党に投じられた投票数の合計が投票参加者数の 60%に達するまで得票率の高い順に得票率 7%以下の政党に議席が与えられる [第 82 条第 8 項]。

2.7.3. 1 つの政党の得票率が 60%を超え、他の政党の得票率が 7%以下の場合、得票率 7%以下の政党のうち最多得票した政党にも議席が与えられる [第 82 条第 9 項]。

2.7.4. 議席を獲得することのできる政党の得票数を合計し、それを 450 で割った商を第一次当選基数とする [第 83 条第 1 項]。

選挙結果が表 2 の場合：第一次当選基数 $=44,011,186 \div 450=97,803$

2.7.5. 議席を獲得することのできる政党の得票数を第一次当選基数で割った商の整数部分の数字がそれぞれの政党の獲得議席数となる [第 83 条第 2 項] (表 3、なお得票数は架空の数字である)

2.7.6. 上記 [第 83 条第 2 項] の手続き後、残余議席がある場合は、第 83 条第 2 項の手続きの商の小数部分の大きい順に議席を配分する。小数部分が同一の場合は得票数の多い政党に先に議席を配分する [第 83 条第 3 項]。

表 3 各党の獲得議席の算出 (得票数は架空の数字)

	得票数	計算式	整数部分	議席
ロシア連邦共産党	4,611,526	÷97,803 = 47.15	47	47
ロシア自由民主党	3,762,761	÷97,803 = 38.47	38	39
「公正ロシア」	3,654,393	÷97,803 = 37.36	37	37
「統一ロシア」	31,982,506	÷97,803 = 327.01	327	327
合計	44,011,186		449	450

第一次当選基数 =  $44,011,186 \div 450 = 97,803$

## 2.8. 各連邦候補者名簿内の地域別議席配分の方法

2.8.1. 連邦候補者名簿に全連邦部分がある場合には、まず全連邦部分の候補者に議席を与え、残りの議席を地域グループ別候補者に与える [第 83 条第 4 項]。

統一ロシア党の場合：プーチン候補がまず当選

残りの議席は  $327 - 1 = 326$  議席

2.8.2. 各党の得票数を地域グループ別候補者に与える議席数で割りその商を第二次当選基数とする [第 83 条第 5 項]。

「統一ロシア」の地域別議席配分のための第二次当選基数

=  $31,982,506 \div 326 = 98,106$

2.8.3. 「統一ロシア」の地域グループ別得票数を第二次当選基数で割った商の整数部分の数字が当該地域グループの獲得議席数となる [第 83 条第 5 項] (表 4、なお得票数は架空の数字である)。

2.8.4. 上記 [第 83 条第 5 項] の手続き後、残余議席がある場合は、商の小数部分の大きい順に議席を配分する。小数部分が同一の場合は得票数の多い地域に先に議席を配分する [第 83 条第 5 項]。

表 4 統一ロシアの各地域グループの獲得議席の算出 (得票数は架空の数字)

地域グループ名	票数	計算式	整数部分	議席
アディゲア共和国	405,962	÷98,106 = 4.14	4	4
. . . . .				
アルタイ辺区	254,964	÷98,106 = 2.60	2	2
. . . . .				
アムール州	342,568	÷98,106 = 3.49	3	3
. . . . .				
モスクワ市	3,564,561	÷98,106 = 36.33	36	36
. . . . .				
ハンティ・マンシヤ自治管区	195,859	÷98,106 = 1.97	1	2
. . . . .				
合計	31,982,506		321	326

## 2.9. 制度的問題点

### 2.9.1. 7%阻止条項

- ・ 5%程度が妥当との意見が多い (ドイツをはじめ 5%阻止条項が多い)。
- ・ ポーランドでは単独政党が 5%、政党ブロックについては 8%阻止条項があるが、これは政党ブロックではなく大同団結による単独政党の育成を促進するものと考えられる。
- ・ ロシアの場合も、政党の大同団結を促進するものと考えられる。政党法の趣旨も同様。

### 2.9.2 小選挙区制の廃止

- ・ 全国一区比例代表制とはいえ地域別名簿により小選挙区制的な制度を加味しているので、小選挙区を廃止したとしても、地域密着型の選挙運動が実施される状況は余り変化がないと考えられる。
- ・ 名望政治家 (地域ボス型議員) の台頭を抑制し、政党中心の議会運営となると考えられる。

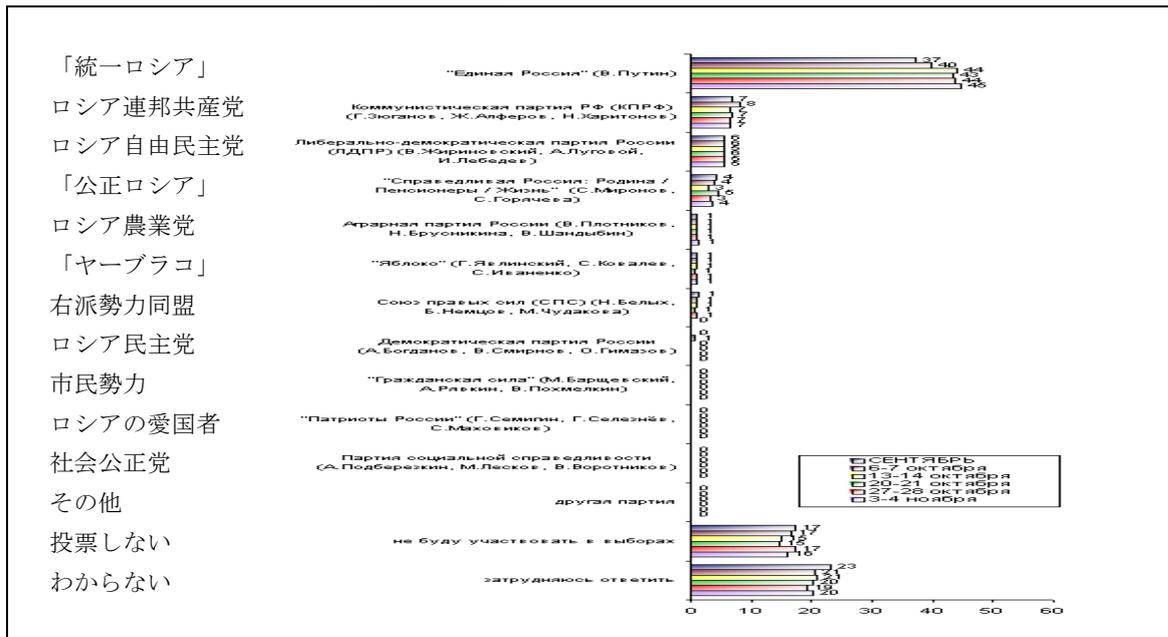
3. 2007 年ロシア下院選挙の動向

3.1. 2007 年下院選挙に参加する政党

表 2 を参照

3.2. 世論調査

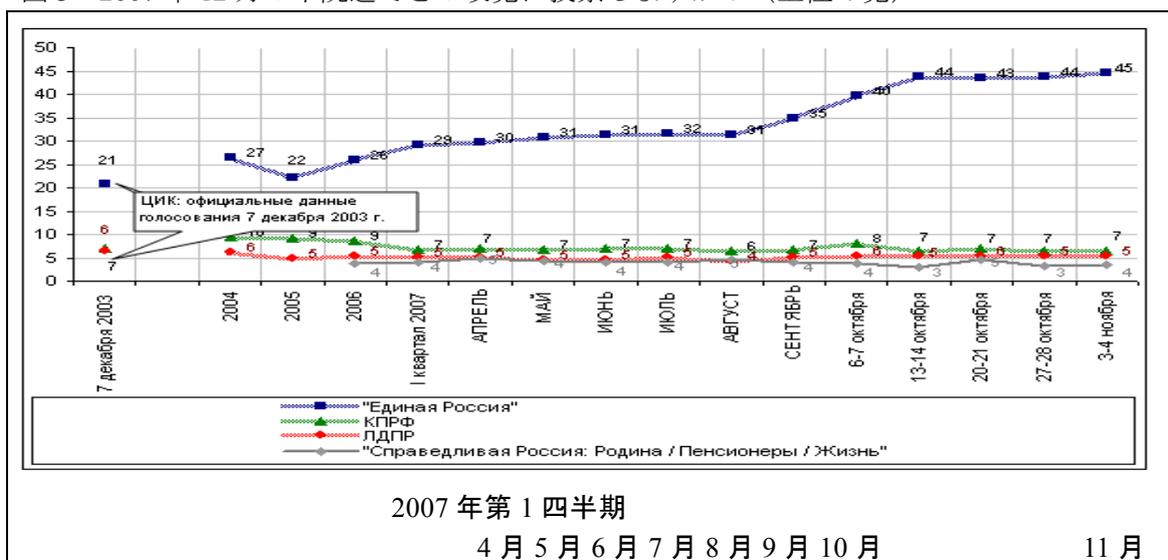
図 2 2007 年 12 月の下院選でどの政党に投票しますか？



出典：11月7日 Public Opinion Foundation 調査

<http://bd.fom.ru/report/map/projects/dominant/dom0745/d074501> [2007/11/15]

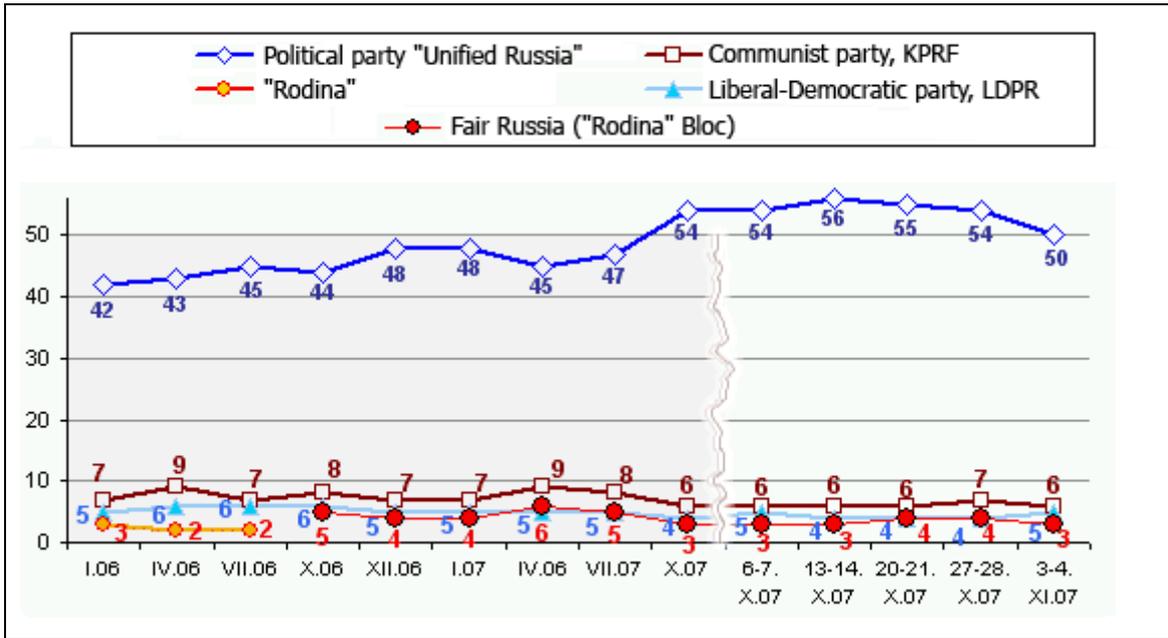
図 3 2007 年 12 月の下院選でどの政党に投票しますか？ (上位 4 党)



出典：図 1 に同じ

注：「投票しない」は 16%、「わからない」20%である。

図4 2007年12月の下院選でどの政党に投票しますか？(上位4党)

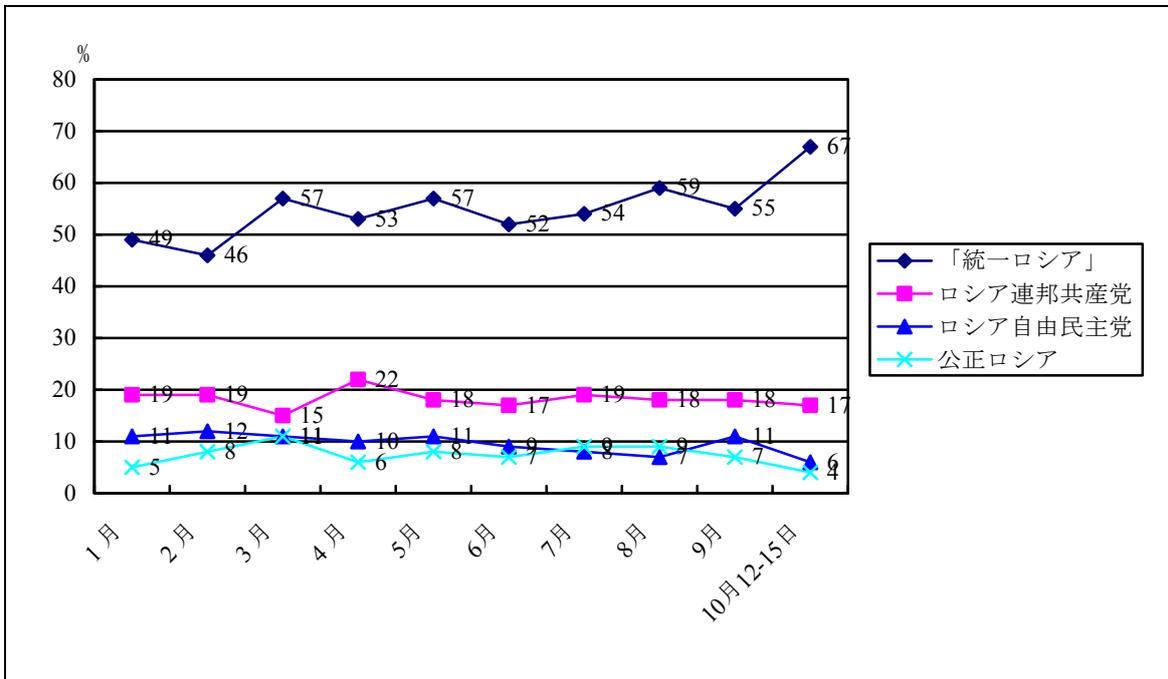


出典：11月3-4日 All-Russian Public Opinion Research Center 調査

<http://wciom.com/novosti/reitingi/ehlektoralnyi-reiting-politicheskikh-partii.html> [2007/11/15]

注：「投票しない」は14%、「わからない」19%である。

図5 2007年12月の下院選でどの政党に投票しますか？(上位4党)



出典：10月12-15日 Levada Center 調査。 <http://www.levada.ru/reitingi2007.html> [2007/11/15]

作図は筆者。

注：数字は、「投票しない」と「わからない」を除いた数字を分母にした比率。

## 3.3. 世論調査結果による議席予想

## 3.3.1. 計算方法

- ・いずれかの政党に投票すると答えた回答者数、すなわち「投票しない」または「わからない」と答えた回答者数を除いた数を分母にしたときに、7%未満の回答者数だった政党は無視する。
- ・7%以上の各政党の回答者数を、7%以上の政党に投票すると答えた回答者数の合計で割った商に 450 をかける。

## 3.3.2. 計算結果

- ・最新の世論調査によれば、下院議席は、「統一ロシア」、ロシア連邦共産党、ロシア自由民主党の3党で分け合うか、または前者の2党で分け合うことになる。
- ・「統一ロシア」は 355~369 議席を獲得し、議席占有率は 79~82%となる。

表5 世論調査結果による議席予想

	Public Opinion Foundation		All-Russian Public Opinion Research Center		Levada Center	
	議席	%	議席	%	議席	%
「統一ロシア」	355	78.89	369	82	359	79.78
ロシア連邦共産党	55	12.22	44	9.78	91	20.22
ロシア自由民主党	40	8.88	37	8.22	—	—

## 3.4. 2007 年地方選の結果による議席予想

表6 2007 年 3 月 11 日、4 月 15 日、連邦構成主体議会選挙における主要政党の獲得議席

		「統一ロシア」	ロシア連邦共産党	「公正ロシア」	ロシア自由民主党	その他*1
ダゲスタン共和国	比例区得票数	727,987	82,552	122,154	9,221	163,402
	比例区得票率	63.67	7.22	10.68	0.81	16.19
	比例区議席数	47	5	8	0	12*2
コミ共和国	比例区得票数	107,961	42,560	46,222	40,616	26,259
	比例区得票率	36.18	14.26	15.49	13.61	8.80
	比例区議席数	6	2	3	2	2*3
スターヴロポリ辺区	1 人区議席数	12	0	0	0	2
	比例区得票数	194,400	115,117	306,571	96,106	62,999
	比例区得票率	23.87	14.13	37.64	11.80	7.73
ヴォログダ州	比例区議席数	6	4	10	3	2*4
	1 人区議席数	9	1	2	0	13
	比例区得票数	148,433	47,600	74,064	38,357	33,253
レニングラート州	比例区得票率	41.90	13.44	20.91	10.83	9.39
	比例区議席数	7	2	4	2	2*5
	1 人区議席数	15	0	0	0	2
レニングラート州	比例区得票数	145,592	70,519	86,500	50,104	—
	比例区得票率	35.24	17.07	20.94	12.13	—
	比例区議席数	10	5	6	4	0

	1 人区議席数	12	1	3	0	9
モスクワ州	比例区得票数	790,129	296,640	141,294	108,603	—
	比例区得票率	49.57	18.61	8.86	6.81	—
	比例区議席数	33	12	5	0	0
ムルマンスク州	比例区得票数	91,663	37,958	35,157	27,353	—
	比例区得票率	42.19	17.47	16.18	12.59	—
	比例区議席数	8	3	3	2	0
オムスク州	2 人区議席数	11	0	2	0	3
	比例区得票数	436,781	175,898	37,927	33,666	—
	比例区得票率	55.65	22.41	4.83	4.29	—
オムスク州	比例区議席数	16	6	0	0	0
	1 人区議席数	22	0	0	0	0
	比例区得票数	142,676	86,934	46,087	26,836	—
オリョール州	比例区得票率	39.02	23.78	12.60	7.34	—
	比例区議席数	12	7	4	2	0
	1 人区議席数	14	6	0	0	5
プスコフ州	比例区得票数	110,406	47,298	38,109	20,456	—
	比例区得票率	45.52	19.46	15.68	8.41	—
	比例区議席数	11	5	4	2	0
プスコフ州	1 人区議席数	18	0	1	1	2 <sup>*6</sup>
	比例区得票数	305,616	172,950	137,974	105,625	143,338
	比例区得票率	33.54	18.98	15.14	11.59	15.73
サマラ州	比例区議席数	11	5	4	3	2 <sup>*7</sup>
	1 人区議席数	15	1	1	0	8
	比例区得票数	155,426	44,408	26,245	42,748	25,826
トムスク州	比例区得票率	46.79	13.37	7.90	12.87	7.78
	比例区議席数	11	3	2	3	2 <sup>*8</sup>
	1 人区議席数	16	0	0	0	5
チュメニ州	比例区得票数	738,217	93,810	97,873	121,032	—
	比例区得票率	65.89	8.37	8.74	10.80	—
	比例区議席数	13	1	1	2	0
チュメニ州	1 人区議席数	17	0	0	0	0
	比例区得票数	459,052	196,854	269,061	133,746	—
	比例区得票率	37.37	16.02	21.90	10.89	—
サンクト・ペテルブルク市	比例区議席数	23	9	13	5	0
	比例区得票数	340,331	162,651	99,285	94,011	58,036
	比例区得票率	42.52	20.32	12.40	11.75	7.25
クラスノヤルスク辺区*9	比例区議席数	12	6	3	3	2*10
	1 人区議席数	17	2	4	0	3
	比例区得票数合計	4,894,670	1,673,749	1,564,523	948,480	—
比例区得票数合計に基づく得票率 (A)	53.90	18.43	17.23	10.44	—	
議席合計	404	86	85	34	76	
議席比 (4 党合計 609 議席を分母とする) (B)	66.34	14.12	13.96	5.58	—	
議席比 (3 党合計 575 議席を分母とする) (C)	70.26	14.96	14.78	—	—	
下院選議席予想 (450×A)	243	83	77	47	—	
下院選議席予想 (450×C)	316	67	67	—	—	

出典 : *Biulleten' Natsional'nogo tsentra monitoringa demokraticeskikh protsedur*, Vypusk No. 3, May 2007 [『民主的手続監視国民センター・ブレティン』第 3 号、2007 年 5 月]  
(<http://www.vibory.ru/Regs/monit-3.pdf> [2007/09/09]), pp. 74-216;

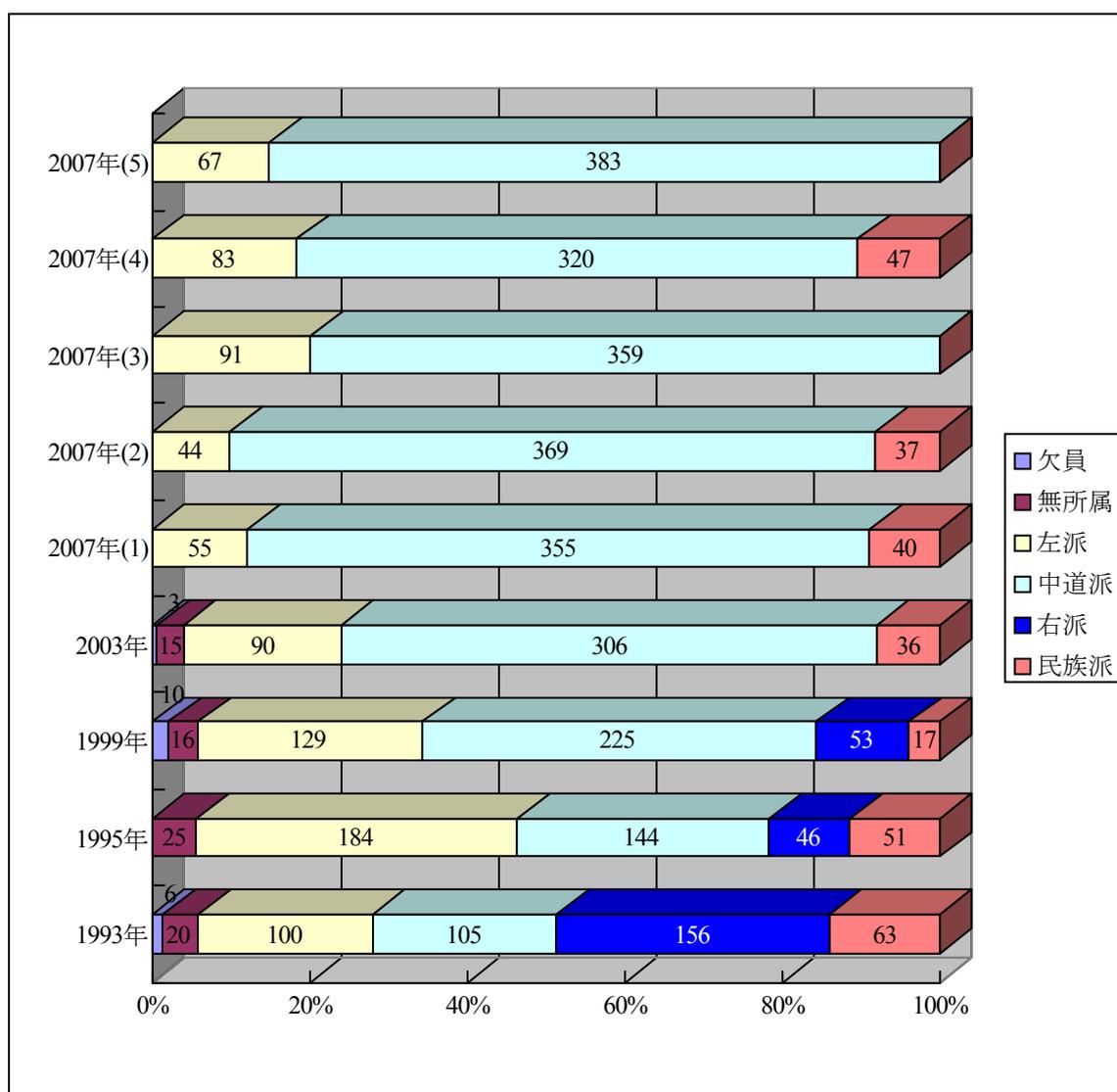
[http://www.vibory.ru/elects/reg-zak\\_r\\_07.htm](http://www.vibory.ru/elects/reg-zak_r_07.htm) [2007/09/09];  
*Biulleten' Natsional'nogo tsentra monitoringa demokraticheskikh protsedur*, Vypusk No. 4,  
 August 2007 [『民主的手続監視国民センター・ブレティン』第4号、2007年8月]  
 (<http://www.vibory.ru/Regs/b-4.pdf> [2007/11/15]), pp. 51-56.

注：\*1) その他の欄の議席は、とくに注記がなければ無所属。\*2) うち7議席がロシア農業党、5議席が「ロシアの愛国者」。\*3) 2議席とも「右派勢力同盟」。\*4) 2議席とも「右派勢力同盟」。\*5) 2議席ともロシア農業党。\*6) うち1議席は「右派勢力同盟」。\*7) うち1議席は「右派勢力同盟」、1議席はロシア環境党「緑」。\*8) 2議席とも「右派勢力同盟」。\*9)2007年4月15日に実施。\*10) 2議席とも「右派勢力同盟」

- ・地方選に基づく予想は、選挙の実施時期が2007年3月から4月にかけてのものだったことを加味しても、最新の世論調査の結果とは大きく異なっている。
- ・「公正ロシア」がロシア連邦共産党に並ぶ勢いを示している。

### 3.5. 下院政治傾向別議席数および予測

図6 1993年～2003年の下院政治傾向別議席数および2007年12月下院選の議席予想



### 3.6. 主要 4 政党の特徴

#### 3.6.1. 「統一ロシア」

##### 特徴

- ・調整型市場経済  
エネルギー産業および航空宇宙軍需産業を戦略的基幹産業として位置付け、政府の強いコントロール下に置く
- ・エネルギー資源戦略を重視し持続的経済発展の可能な「強いロシア」を目指す
- ・受益者負担主義
- ・都市の高所得者層・中産階級・ホワイトカラー層、ならびに地方富裕層をターゲットとする

##### 問題点

- ・旧「統一」系（国家官僚・テクノクラート）と旧「祖国－全ロシア」系（連邦構成主体官僚・地方産業経営層）との潜在的対立を内包している
- ・「政党本部－議員－地方支部組織－有権者」のチャンネルが未成熟

#### 3.6.2. ロシア連邦共産党

##### 特徴

- ・エリツィン政権下で蓄財した経営層に対する非難・攻撃
- ・福祉国家を志向
- ・CIS の結合の強化
- ・ロシア・ナショナリズムを強調
- ・農民・年金生活者・低所得労働者層をターゲットとする

##### 問題点

- ・国家会議議員（穏健・妥協的）と地方党活動家層（過激・非妥協的）との潜在的対立を内包している
- ・ジュガーノフ後継者の育成が急務

#### 3.6.3. ロシア自由民主党

##### 特徴

- ・強力なロシア・ナショナリズムあるいは国粹主義
- ・無責任な過激主義あるいは道化
- ・政治を劇場化し、低学歴者層に宣伝効果が大きい

##### 問題点

- ・ジリノフスキーの個性に依存しすぎており、浮動票に依存せざるを得ない

#### 3.6.4. 「公正ロシア」

##### 特徴

- ・第二与党をめざす
- ・受益者負担主義よりも社会的公正を重視
- ・調整型市場経済
- ・ロシア・ナショナリズム
- ・中産階級・年金生活者（共産支持層）をターゲットとする

#### 問題点

- ・統一ロシアとの違いがあいまい
- ・ミローノフの個性に依存しすぎており、一過性のブームに終わる可能性がある

### 3.7. 「統一ロシア」連邦候補者名簿

#### 3.7.1. 全連邦部分

- ・プーチン大統領の名簿第一位の登録。  
「統一ロシア」圧勝にさらに拍車をかける。  
最大の被害者は、「公正ロシア」。

#### 3.7.2. 地域別候補者グループ

- ・全体を 83 地域グループに分割。
- ・83 地域グループ中、63 地域グループで、名簿順位第 1 位が当該連邦構成主体首長。
- ・名簿順位第 1 位が当該連邦構成主体首長でない 20 地域グループの名簿順位第 1 位は下院議員 12 名、連邦大臣 3 名（表 7）。

#### 3.7.3. 連邦候補者名簿全連邦部分第 1 位のプーチン大統領の当選辞退？

- ・プーチンの任期は 2008 年 4 月末まで。連邦大統領を任期満了前に辞任し、下院議員に就任する可能性もある。その場合でも大統領選挙は予定通り 3 月実施。
- ・下院議員を選択した場合、下院議長に選出か？

#### 3.7.4. 名簿第 1 位の連邦構成主体首長、連邦大臣らの当選辞退？

- ・下院議員と連邦大統領、連邦構成主体首長、連邦大臣などとの兼職はできない。
- ・辞退するか、下院議員を選択するのか。  
連邦構成主体首長も連邦大臣も公選ではない（前者は、当該連邦構成主体議会の推薦を受けて連邦大統領が候補者指名をし、議会の承認を経て、連邦大統領が任命。後者は政府議長＝首相の提案を受けて連邦大統領が任命）ので、首長や大臣の辞めどきなら、下院議員の選択もありうる。

表 7 名簿順位第 1 位が当該連邦構成主体首長でない地域グループ

地域グループ名	名簿順位第 1 位候補の職
イングーシェチア共和国	ロシア連邦農業省局長
カラチャエヴォ・チェルケシア共和国	現職下院議員
コーミ共和国	シクティフカル市・区長
ハカシア共和国	ハカシア共和国最高ソヴィエト議員
ペルミ辺区	ロシア連邦天然資源大臣
スターヴロポリ辺区	ロシア連邦緊急事態大臣
アルハンゲリスク州、ネネツィア自治管区	現職下院議員 (下院副議長)
ヴラジーミル州	現職下院議員 (党総評議会幹部会書記代理)
ヴォルゴグラート州ゴルゴグラート地区	ヴォルゴグラート国立医大学長
ヴォルゴグラート州ヴォルガ地区	ヴォルゴグラート州政府第一副長官
ヴォルゴグラート州ミハイロフ地区	現職下院議員
ヴォロネジ州ヴォロネジ地区	現職下院議員
ヴォロネジ州パヴロフ地区	現職下院議員
キーロフ州	現職下院議員
コストロマ州	現職下院議員 (党総評議会幹部会員)
ペンザ州	現職下院議員 (党総評議会会員)
リャザニ州	ロシア連邦農業大臣
サラトフ州	現職下院議員 (下院副議長)
スモーレンスク州	現職下院議員
サンクト・ペテルブルク市	現職下院議員 (下院議長)

出典 : <http://www.cikrf.ru/postancik/Zp07p285.doc> [2007/11/14]

#### 4. 2008 年 3 月ロシア連邦大統領選挙の予想

##### 4.1. 予想される大統領候補者の公式経歴

###### Gryzlov Bolis Viacheslavovich

グリズロフ、ボリス・ヴァチエスラヴォヴィチ  
ロシア連邦・連邦議会国家会議議長



1950 年 12 月 15 日、ヴラジヴォストーク市生まれ。  
1973 年、レニングラート電気工業大学卒業。  
「コムンテルン」科学生産合同に技師として就職。  
1977 - 1996 年、主席設計技師～「エレクトロンプリボル (電子機器)」生産部門長。  
1996 年、バルト国立工業大学新技術教育方法論センター長。  
1999 年、サンクト・ペテルブルク市地域連合ビジネス協力基金「地域発展」理事長。  
1999 年 10 月、「統一」運動サンクト・ペテルブルク支部長。  
1999 年 12 月、「統一」運動連邦選挙区名簿からロシア連邦・連邦議会国家会議議員に当選。  
2000 年 1 月、院内会派「統一」議長。  
2000 年 5 月、「統一」党政治評議会議長。  
2001 年 3 月 - 2003 年 12 月、ロシア連邦内務大臣。  
2001 年、ロシア連邦大統領およびドイツ連邦共和国首相の発議により創設された露独「ペテルブルク・ダイアログ」討論フォーラム第一議長。  
2002 年 11 月、「統一ロシア」党最高評議会議長。  
2003 年 12 月 7 日、ロシア連邦・連邦議会国家会議議員に選出。  
2003 年 12 月 29 日、ロシア連邦・連邦議会国家会議議長に選出。院内会派「統一ロシア」議長。  
2004 年 11 月、「統一ロシア」党議長。  
2005 年 4 月 - 2007 年 5 月、ユーラシア経済共同体議会連合議会議長。集団安全保障条約機構議会議長。ロシア連邦安全保障会議常任委員。政治学博士候補。  
([http://www.duma.gov.ru/index.jsp?t=deputat/biog\\_rus.html](http://www.duma.gov.ru/index.jsp?t=deputat/biog_rus.html) [2007/09/30])

###### Zubkov, Viktor Alekseevich

ズブコフ、ヴィクトル・アレクセーエヴィチ  
ロシア連邦政府議長



1941 年 9 月 15 日、スヴェルドロフスク州クシュヴァ地区  
アルバート町生まれ  
1958-60 年、ムルマンスク州モンチェゴルスク機械修理工  
場修理工、「セーヴェロニックリ」コンビナート「ニッティ  
ス・クムジエ」鉱山勤務。  
1960-1965 年、レニングラート州プーシキン市レニングラート農業大学経済学部。  
兵役後、1967 年 2 月から、レニングラート州プリーオーゼルス地区の国営農場「赤い  
スラブ女性」総務部長・副農場長、国営農場「広野」農場長、国営農場コンツェルン

「五月一日」総裁を歴任。1985年8月から、プリーゼルス市ソヴィエト執行委員会議長、ソ連共産党プリーゼルス市委員会第一書記、ソ連共産党レニングラート州委員会農業・食品工業部長、同委員会農業部長を歴任。

1989-1991年レニングラート州ソヴィエト執行委員会第一副議長（当時の議長は後のロシア連邦政府副議長ユーリー・ヤーロフ）。

1992年1月-1993年11月、サンクト・ペテルブルク市庁対外関係委員会第一副議長（当時の議長はプーチン）。プリーゼルス市はラドガ湖畔にある風光明媚な土地のため、当時、ズプコフの世話で、プーチンおよびその知人たちが当地に別荘を建設との由<sup>17</sup>。

1993年11月-1999年7月、サンクト・ペテルブルク市担当国税査察長。

1999年7月レニングラート州知事選に出馬（選対本部長はグリュズロフ現国家会議議長）、得票率8.64%で第4位。

1999年7月-2001年11月、国税公課省次官サンクト・ペテルブルク国税・公課局長。

2001年11月5日-2004年3月16日、財務省財務監視委員会議長、財務第一次官。

2004年3月16日、連邦財務監視庁（財務省外局）長官。

(<http://www.government.ru/government/rfgovernment/rfgovernmentchairman/6600764.htm>  
[2007/09/30])

#### Ivanov Sergei Bolisovich

イヴァーノフ、セルゲーイ・ボリーソヴィチ  
ロシア連邦政府第一副議長



1953年1月31日、レニングラート市生まれ。

レニングラート国立大学文学部翻訳・通訳学科、ミンスク市ソ連国家保安委員会高級学校、ソ連国家保安委員会第一総局第101学校（現ロシア連邦対外諜報庁アカデミー）卒業。

1981 - 1998年、ソ連国家保安委員会第一総局捜査員～ロシア連邦対外諜報庁局第一次長（局名非公表）。スカンジナビアおよびアフリカに3回にわたり長期出張（国名非公表）。国家保安委員会再編後、ロシア連邦対外諜報庁、ロシア連邦・連邦保安庁に継続して勤務。

1998年8月、連邦保安庁次官兼連邦保安庁分析・予測・戦略計画局長。

1999年11月15日、ロシア連邦安全保障会議事務局長。予備役大将。

2001年3月28日、ロシア連邦国防大臣。

2005年11月14日、ロシア連邦政府副議長兼ロシア連邦国防大臣。

2007年2月16日、ロシア連邦政府第一副議長。

英語およびスウェーデン語に堪能。

妻、2子。

(<http://www.government.ru/government/rfgovernment/rfgovernmentvicechairman/2992823.htm>  
[2007/09/30])

<sup>17</sup> *Vlast*, No. 36 [740], September 17, 2007, p. 19.

**Mwdvedev Dmitrii Anatol'evich**

メドヴェージェフ、ドミートリー・アナトーリエヴィチ  
ロシア連邦政府第一副議長



1965年9月14日、レニングラート州生まれ。

1987年、レニングラート国立大学法学部卒業、1990年、同  
大学大学院修了。法学博士候補、助教授資格。

1990 - 1999年、サンクト・ペテルブルク大学教員。

1990 - 1995年、レニングラート市人民代議員ソヴィエト議  
長 (サブチャーク、アナトーリー・アレクサンドロヴィチ) 顧問、サンクト・ペテ  
ルブルク市庁対外関係委員会 (議長プーチン、ヴラジーミル・ヴラジーミロヴィチ)  
専門官。

1999年ロシア連邦政府官房副長官 (政府議長プーチン)。

1999 - 2000年、ロシア連邦大統領府副長官。

2000年、ロシア連邦大統領府第一副長官。

2000 - 2001年、「ガスピロム」取締役会議議長、2001年、「ガスピロム」取締役会議  
副議長、2002年6月、「ガスピロム」取締役会議議長。

2003年10月、ロシア連邦大統領府長官。

2005年11月、ロシア連邦政府第一副議長。

妻、男子。

(<http://www.government.ru/government/rfgovernment/rfgovernmentvicechairman/8559534.htm> [2007/09/30])

**Naryshkin Sergei Evgen'evich**

ナルィーシキン、セルゲーイ・エヴゲーニエヴィチ  
ロシア連邦政府官房長官 - ロシア連邦政府副議長



1954年10月27日、レニングラート州生まれ。

1978年、レニングラート工業大学電子工学専攻、サンク  
ト・ペテルブルク国際経営大学経済学専攻、卒業。

1982年、レニングラート工業大学副学長補佐官。ソ連大臣  
会議科学技術国家委員会専門官として在ベルギー・ソ連大  
使館経済部に勤務。

1992年、サンクト・ペテルブルク市庁経済・金融委員会課長 (課名非公表)。

1995年、サンクト・ペテルブルク市「プロムストロイバンク (興業銀行)」対外投資  
課長。

1997年1月、レニングラート州政府投資局長。

1998年、レニングラート州政府対外経済・国際関係委員会議長。

2004年、ロシア連邦大統領府経済局次長、2004年3月、ロシア連邦大統領府副長官。

2004年9月13日、ロシア連邦政府官房長官 - ロシア連邦大臣。

2007年2月16日、ロシア連邦政府官房長官 - ロシア連邦政府副議長。

英語およびフランス語に堪能。

妻、2子。

(<http://www.government.ru/government/rfgovernment/rfgovernmentvicechairman/4433558.htm> [2007/09/30])

#### Kozak Dmitrii Nikolaevich

コーザック、ドミートリー・ニコラーエヴィチ  
ロシア連邦大統領南方連邦管区全権代表

1958年11月7日、ウクライナ・キロヴォグラート州生まれ。  
1976-1978年、軍勤務。

1985年、レニングラート（現サンクト・ペテルブルク）国立  
大学法学部卒業。

1985 - 1989年、レニングラート州検察局検事補、検事正。

1989 - 1990年、「モノリート・キロヴォストロイ」、ソ連貿易  
港協会、法務部長。

1990 - 1999年、レニングラート市人民代議員ソヴィエト執行委員会法務部副部長、法  
務部長、サンクト・ペテルブルク市庁官房法務委員会議長。

1998 - 1999年、サンクト・ペテルブルク市副知事（知事ヤーコヴレフ、ヴラジーミル・  
アナトーリエヴィチ）。

1999年1 - 8月、弁護士。

1999 - 2000年、ロシア連邦政府官房長官、ロシア連邦大臣（政府議長カシヤーノフ、  
ミハイール・ミハーイロヴィチ）。

2000年6月、ロシア連邦大統領府副長官。

2003年10月、ロシア連邦大統領府第一副長官。

2004年3月9日、ロシア連邦政府官房長官、ロシア連邦大臣（政府議長フラトコーフ）。

2004年9月13日、ロシア連邦大統領南方連邦管区全権代表。

妻、2男子。

([http://president.kremlin.ru/state\\_subj/27810.shtml](http://president.kremlin.ru/state_subj/27810.shtml) [2007/09/30])



#### Iakunin Vladimir Ivanovich

ヤクーニン、ヴラジーミル・イヴァーノヴィチ  
「ロシア鉄道会社」社長

1948年6月30日、ヴラジーミル州メレニキ市生まれ。

1972年、レニングラート工業大学卒業。

レニングラート市国立応用化学研究所研究員、軍勤務、ソ連大臣会議対外経済関係国家委員会技官、上席技官、ソ連科学アカデミー・ヨッフエ物理工学研究所課長。

1985 - 1991年、ソ連国際連合常駐代表部二等書記官、一等書記官。

「国際協力ビジネスセンター」取締役会議議長、ロシア連邦大統領府監督総局北西連邦管区監督局長



(監督総局長プーチン)。

2000年10月、ロシア連邦運輸次官。2002年2月、ロシア連邦鉄道第一次官。

2003年10月24日、「ロシア鉄道会社」第一副社長。

2005年6月14日、「ロシア鉄道会社」社長。

([http://center.rzd.ru/wps/portal/center?STRUCTURE\\_ID=5010](http://center.rzd.ru/wps/portal/center?STRUCTURE_ID=5010) [2007/09/30])

## 4.2. 予想される大統領後継者の類型的分析

### 4.2.1. 出生地

- ・ レニングラート州 (レニングラート市を含む)  
ズプコーフ、イヴァーノフ、メドヴェージェフ、ナルイーシキン
- ・ その他  
グルィズローフ、コーザック、ヤクーニン

### 4.2.2. 出身校

- ・ レニングラート国立大学  
イヴァーノフ、メドヴェージェフ、コーザック
- ・ その他  
グルィズローフ、ズプコーフ、ナルイーシキン、ヤクーニン

### 4.2.3. 出身校所在地＝最初の勤務地

- ・ レニングラート市  
グルィズローフ、イヴァーノフ、メドヴェージェフ、ナルイーシキン、コーザック、ヤクーニン
- ・ その他  
ズプコーフ

### 4.2.4. 職歴

- ・ レニングラート州またはサンクト・ペテルブルク市での地方行政・議員の経験  
ズプコーフ、プーチン、メドヴェージェフ、ナルイーシキン、コーザック
- ・ 海外勤務経験  
イヴァーノフ、ナルイーシキン、ヤクーニン

#### 4.2.5. 生年

1941 ズブコーフ  
1942  
1943  
1944  
1945  
1946  
1947  
1948 ヤクーニン  
1951  
1950 グルィズローフ（フラトコーフ）  
1951  
1952 （プーチン）（スチェパーシン）  
1953 （ミローノフ）イヴァーノフ  
1954 ナルイーシキン  
1955 （チュバーイス）  
1956 （ガイダール）  
1957  
1958 （サビャーニン）コーザック  
1959 （ネムツォーフ）  
1960  
1961  
1962 （キリエーンコ）  
1963  
1964  
1965 メドヴェージェフ

#### 4.2.6. ペレストロイカ開始時（1985年）の年齢

ズブコーフ 44 歳  
ヤクーニン 37 歳  
グルィズローフ、フラトコーフ 35 歳  
（プーチン 33 歳）  
イヴァーノフ 32 歳  
ナルイーシキン 31 歳  
コーザック 27 歳  
メドヴェージェフ 20 歳

#### 4.2.7. 次期大統領の任期中の年齢

（プーチン第1期 48～51 歳、第2期 52～55 歳）  
ズブコーフ 66～70 歳  
ヤクーニン 60～63 歳  
グルィズローフ 58～61 歳

プーチン 56～59 歳  
イヴァーノフ 55～58 歳  
ナルイーシキン 54～57 歳  
コーザック 50～53 歳  
メドヴェージェフ 43～46 歳

#### 4.3. 予想される大統領候補者についてのコメントと、大統領となる可能性

##### グリュズローフ

- ・「統一」および「統一ロシア」会派のリーダーとして、オーガナイザーとしての優れた力量があることを示してきた。
- ・露骨に野心を示さないところが好感度が高い。
- ・プーチンに対して忠誠心があり、年齢が高いため、「1 期だけで、その後、プーチン返り咲き」シナリオが成立した場合、候補になりうる。それ以外のシナリオでは候補者にはなりえない。

##### ズプコーフ

- ・年齢的に見て厳しい。
- ・高齢なので、「1 期だけで、その後、プーチン返り咲き」シナリオが成立した場合、候補になりうる。任期満了前の辞任の可能性もある。それ以外のシナリオでは候補者にはなりえない。

##### イヴァーノフ

- ・プーチンに対する忠誠心は高い。
- ・実務能力は比較的高い。
- ・地方行政・経済分野での実務経験がないのが欠点。

##### メドヴェージェフ

- ・プーチンに対する忠誠心は高い。
- ・実務能力は比較的高いが、年齢的に若いだけに他の潜在的候補者に比べて、政治的手腕、組織運用能力が若干弱い。
- ・年齢的には 2012 年あるいは 2016 年も狙える。
- ・若さ、ルックス、経歴から見て、うまく宣伝すれば、国民的な人気や西側からの好感度も期待できる。

##### ナルイーシキン

- ・実務能力はイヴァーノフ、メドヴェージェフ以上。
- ・比較的、西側の受けがよい。
- ・海外経験の点でメドヴェージェフに勝る。
- ・プーチンの前例から見ても、2007 年に入って頭角を現してきたところが強み。
- ・国民的人気に欠ける。

##### コーザック

- ・実務能力と政治力は、イヴァーノフ、メドヴェージェフよりも高い。
- ・ペテルブルク出身の実務派の中で、旧 KGB 派を抑える政治力を持つ。

- ・内外政についての考え方はプーチンに最も近く、プーチンの信頼は厚い。
- ・「策士」「黒子」的印象が強く、国民的人気がない。
- ・対 CIS 諸国政策で強硬路線を実施したため、CIS 諸国（とくにウクライナ、モルドヴァ、グルジアなど）から評判が悪い。

#### ヤクーニン

- ・実務能力、海外経験に富む。
- ・大統領ではなく政府議長タイプという印象が強い。
- ・年齢的に見て厳しい。